

# 地域と協同の

2016年5月25日発行

# 141号

# 研究センターNEWS

巻頭エッセイ

## 研究センターを通じて

### “つながり、の大切さを学びました！”

**上林 美也子**

（地域と協同の研究センター理事・コープぎふ副理事長）



記憶が定かではないのですが、たしか一昨年の東海交流フォーラムで、いまどきの若者のつながり方について聞きました。マンションの一室で、自分の趣味のものを展示してオープンにしている。同じ趣味を持つ人を招き入れて交流するけど、気が向かないときはドアを閉めておけば、他人をシャットアウトできる、というものでした。自分の都合で必要なときはつながりを求めるし、そうじゃないときは一人であることを選ぶ、という今風のつながり方を知った気がしました。そもそも、今の人たちはそんなに他人とつながりたいと思っていないかも……。そんな思いから、会議の席上で「誰もがつながりたいと思っているわけじゃないと思います」と発言したのを覚えています。

それから2年、研究センターの理事の役割を通じて、理事会やフォーラムやいろんな場で多くを学ばせていただきました。“つながりの大切さ”を学んだ気がします。今は、つながりは無理やりにも作った方がいい、と思うようになりました。「プライバシーが大事、つながりたくない」と思っている人も、いざ災害や事件が起きれば、近所のつながりが何より大事です。お節介でも、大きなお世話でも、つながりを作ることが大事だと思えます。

生協は、まさにつながりの組織です。共同購入の場での担当者と組合員、組合員同士のつながりがあります。『班』は、現代社会で無くなりつつある隣近所の日常的なつながりを保たせるシステムです。たすけあい活動における利用者と応援者のつながりが、住み慣れた地域で暮らし続けるために必要不可欠になっています。地域のためにがんばっている人たちとその周りに引き寄せられていく人たちのつながりによって、コミュニティが再生した事例も学びました。

東海交流フォーラムのテーマの変化に合わせて、私も「つながるっていいかも」から「小さなつながりからひらける地域の未来」を実感するようになりました。

### CONTENTS

巻頭：研究センターを通じて “つながり、の大切さを学びました！”	1
～尾張地域懇談会世話人会活動～	
「わいわい子ども食堂」「ポトスの部屋」見学	2
情報提供：「地域に根ざす『いのち』と『くらし』を脅かすTPPの批准に反対する」声明	4
情報クリップ	5～7
企画案内・書籍案内	8

### 研究センター 5月の活動

6日(金)総会議案書発送	9日(月)三重地域懇談会 立梅用水訪問
10日(火)国際協同組合デー記念行事相談会	
11日(水)事務局会議	
12日(木)寄付講義④/三河地域懇談会世話人会	
14日(土)研究フォーラム環境 三重電力自由化学習会	
16日(月)くらしを語り合う会/NEWS編集委員会	
19日(木)寄付講義⑤	20日(金)常任理事会
21日(土)政策提言チーム会合	23日(月)研究フォーラム環境世話人会
25日(水)NEWS発送	26日(木)寄付講義⑥
28日(土)第16回通常総会/記念シンポジウム/政策提言チーム会合	

## 「わいわい子ども食堂(名古屋市北区)」「ポトスの部屋(名古屋市熱田区)」見学 ～尾張地域懇談会世話人会～

尾張地域懇談会世話人会では、地域で自立、協同している地域福祉の事例、地域ごとのモデルとして視察・懇談させていただき学ぶことを目的に、4月6日(水) わいわい子ども食堂(名古屋市北区)、4月8日(金) ポトスの部屋(名古屋市熱田区)を見学・交流しました。

今回はこの二つの学びを紹介します。

### 楽しそうな子どもたちの声が飛び交う時間・空間～わいわい子ども食堂

4月6日(水)午後5時。名古屋市北区上飯田北町。北医療生協・上飯田わいわいルーム(すまいるハートビル 2F)。現在は月1回の「わいわい子ども食堂」の受付がスタート。チラシを見て初めて参加する子や3月に引き続きという子が少しずつ集まってきました。

食事を調理するボランティアは午後2時から順次集まり、食材の運び込みから調理を始めていました。

5時30分の食事配膳開始前の時間、集まった子どもたちはわいわい子ども食堂プロジェクトの皆さんが準備した折り紙や読み聞かせで気持ちをリラックスさせています。わいわいルームには5～6人くらいのグループが複数出来上がっていました。

待ちに待った5時30分。食事の配膳が始まり、参加者はサポーターの皆さんから手洗いを指導してもらいます。今日のメニューは子どもたち向けに酢を抑えた稲荷寿司、3種から選べるおにぎり、野菜

っておいしそうに食べていました。おいしいだけでなく大勢で食べるので楽しさも加わります。

調理、子どもたちの遊び相手もするボランティア



サポーターは20数名集まりました。来れる時に手伝いに来る、と子どもたちの様子を頼もしそうに見ながら、料理のとりわけを支えていました。

わいわい子ども食堂の様子をテレビで知った高校生2名。自分たちにもできることを、と電話で問い合わせたボランティアサポーターに加わってくれました。ボランティアサポーターは主に、北医療生協の組合員の皆さんが担っていますが、高校生2名と同じような思いで参加する方もあり、25歳で会社勤めの女性はわざわざ休暇をとってサポーターとして加わり、今日は仕事を終えてから駆けつけてくれたとのこと。チラシを見た青年が見学に来ることもあったそうです。

「わいわい子ども食堂」は地域の誰もが集える場、食事を提供する場として、1) 北医療生協ファミリープロジェクト、2) 暮らしと法律を結ぶハウネット、3) 社会福祉法人 名北福祉会・めいほく保育園の3団体でわいわい子ども食堂プロジェクトを設立。2015年11月から月1回、場を提供してきました。

プロジェクト運営委員長の杉崎伊津子さんから「近年『孤食』が社会問題化。様々な家庭の事情で孤食にならざるを得ない子どもたちに、必要なバラ



を中心にしたサラダ、スープそしてバナナです。

大皿でテーブルに並べられた料理を、お盆にお皿と箸をのせた子どもたちがひとりずつ、ビュッフェスタイルで盛り付けていきます。

今日の参加者は26名。6人で座るテーブルの島が7つできあがり、みんなが揃ったテーブルからから食事が始まりました。小学生のお兄ちゃんと一緒に参加した、小学校入学前の女の子。箸を上手に使

ンスが取れた食事を安心できるサポーターとともに  
会話しながら、健康指導や学習支援も合わせて、地

域の大人も子どもと共に元気になれる居場所づくり」  
をわいわい子ども食堂の目的と伺いました。

## 居場所づくり、学習・生活支援で地域の子どもたちを支える～ポトスの部屋

名古屋市熱田区にある工場。緑の階段を登ると、  
「ポトスの部屋」があります。

伺ったのは4月8日（金）、午後4時。新学期が始  
まったばかりの時期。今回の訪問では子どもたちは  
お休み、ポトスの部屋代表の山田ちづ子さんを始め  
4名の方から、日頃の取り組みについてお聞きしま  
した。

ポトスの部屋は、午後は不登校や引きこもりの子  
どもや若者を対象にした「居場所」の提供、夜（7  
時～9時）は中学生の「学習支援」、そして随時受け  
入れの「相談の場」と3つの事業を行っています。

2009年1階作業場の工場を閉鎖。2005年  
に発足した「いつか、きっと…親の会」の取り組み  
でわかってきた新たな社会の困りごとを支えられる  
よう、ポトスの部屋の設立を準備。2011年4月  
に2階の事務所をフリースペースとして行き場のな  
い子どもたち向けに開放。ケースワーカーに相談す  
る中で、生活保護世帯の子どもへの学習支援が全国  
で広がっていることを知り、フリースペースにあわ  
せて無料学習支援を2012年3月にスタートしま  
した。高知医療生協の診療所で行われている学習支  
援の活動を知り、大宝西支部で支部長を担っていた  
代表の山田ちづ子さんが、診療所の会議室を使用で  
きないかと「みなと医療生協」に相談しながら、一  
段ずつ階段を登りました。現在、熱田区のポトスの  
部屋と港区の診療所2か所の3か所で学習支援をし  
ています。

「この問題、どうしてもわからない」という子ど  
も。子どもたちが持参する問題は、その場にならな  
いと分かりません。学習支援に携わっているのは大  
学生のほか、元先生だけでなく、エンジニア、保育  
士などと様々な経歴を持っている人です。解き方を

教えるのではなく、子どもたちが「わからない」と  
言える場、わからない問題を一緒になって考える先  
生。一対一で問題を考えることで、子どもたちの安  
心にもつながります。「一緒に考える」ポトスの部屋  
の学習支援の特徴です。

また、手のあいたスタッフが全国から届いたカン  
パのお米でおにぎりを作ります。スタッフが握った  
おにぎりが子どもたちの小腹を満たします。

お伺いした時、ポトスの部屋にかけられたホワイト  
ボードには子どもたちの名前と進学先（高校名）  
が書かれ、全員の子どもの名前には花飾りがつ  
いていました。ポトスの部屋で学習をすすめ、今年  
の入試で合格した子どもたちです。全員合格。

彼らの学習を支えてくれたボランティアの学生サ  
ポーターに感謝の気持ちの表れとして、感謝状（写  
真：感謝状を山田さんから披露していただきました）  
を今年から用意したとのこと。一人の何かできるこ  
とをという思いが、いろいろな形で花を咲かせ始め  
ました。



お互いに支え合わないと生きていけない。現代は  
競争より協同・支え合いが求められているはず。地  
域で支え合うことが大切と山田さん。

写真：渡辺 勝弘

## 情報提供

## 日本協同組合学会理事会

## 「地域に根ざす『いのち』と『くらし』を脅かすTPPの批准に反対する」声明

日本協同組合学会常任理事・岡本一朗様より、情報提供いただきました。

同封の「そうだったのか！TPPリーフレット」とともに学習素材として提供させていただきます。

5月14日に開催された日本協同組合学会春季大会（埼玉県聖学院大学）において、5月13日に開催された日本協同組合学会理事会で確認された「地域に根ざす『いのち』と『くらし』を脅かすTPPの批准に反対する」声明を発表しました。その声明文の起草にかかわったひとりとして報告したいと思います。

この声明では、6点の問題点を挙げてTPP批准に反対をしています。

- ①交渉過程も明らかにせず、本則・附則あわせて20本の法改正を短時間で一括審議するのは論点隠し、争点隠しにほかならず、議会制民主主義の軽視である。
- ②ISDS条項の運用いかんによっては、わが国の司法の及ばない恐れがある。その結果、日本の社会制度・文化・伝統の否定をもたらす危険性がある。
- ③TPP議論の本質は、経済活動の自由のためであるかのように装いながら、背後には日米安全保障・防衛問題が隠されており、真の自由貿易の議論ではない。
- ④TPPは関税撤廃に向けて後戻りできない一本道の条約である。協定発効から7年後に相手国の要請によって開催される再協議がそのことを裏打ちしている。
- ⑤都市の消費者にとって、産消提携は地域に根ざす「いのち」と「くらし」を守る重要な取り組みであり、人と人との関係性を軽んじるTPPは市民生活のすべてに破壊的な影響を及ぼす。
- ⑥非関税措置の撤廃によって、農協金融・共済事業の分離、共済と保険とのイコールフットイング、厚生連病院の社会医療法人化、遺伝子組み換え食品の表示ルールの変更、外国企業による農地所有、政府調達への外国企業参入による協同組合受託事業の縮小など、協同組合の存続にとって重大な脅威となる仕掛けが内在している。

この、声明文を発表するにあたって、起草委員会を立ち上げ、起草委員会で、2回の学習会を行いました。第1回目は、4月15日に「TPP協定の全体像と問題点」と題して内田聖子さん（PARC（アジア太平洋資料センター）事務局長／TPPテキスト分析チーム）にお話をいただきました。

第2回目は、4月22日にTPPと関連して、今国会に出されている国内法の改定案について関先生にお話していただきました。2回とも1回で理解できる内容

ではありません。要点を解説していただきました。

- 分析チームが指摘している「規制の整合性」も大問題だ。農業領域はもとより、それぞれの国の固有のルール、規制が「障壁」とされ、存続できなくなる。日本の農業、食の安全を壊す仕組みそのものだ。
- TPPは、協同組合に対する攻撃を意図していることを明確に意識する必要がある。日本では、非営利的な事業組織が経済主体として影響力をもっていくための仕組み、セイフティネットがない。にも関わらずTPPを導入するのは、協同組合に対する明確な攻撃だ。
- 国分寺市では、給食で遺伝子組み換え食品（飼料含む）を使用しないとする規定をもっている。これもISD条項によって排除される可能性がある。など、多くの質問や意見が多く出されました。2013年6月28日に発表された声明「民主主義の原則を否定するTPP交渉参加に反対する」を受け継ぎながら、今回の学習会と意見なども含めてまとめたものが、今回提案あった声明文です。

今の国会での批准は、無くなったようです。しかし、やめたわけではありません、次の国会では、また、出てくると予想されます。それまでに、すこしでも内容を理解することが必要です。

以下のことをお願いいたします。

- 1、ぜひ、「そうだったのか！TPPリーフレット」を読みましょ。そして、普及させましょ。このパンフレットは、40万部を超えました。隠れたベストセラーと言われてています。

### 「そうだったのか！TPPリーフレット」

TPP分析チームが制作したリーフレットです。イラストを使ってTPP協定をわかりやすく解説しています。編集・発行：TPPテキスト分析チーム 発行：2016年3月30日 タブロイド8つ折り／16ページ

- ・PDF版をダウンロードできます。 ・見本版を取り寄せる。 ・購入：1部5円+送料
- 2、ぜひ、「TPP協定の全体像と問題点-分析レポートver. 4-」を読みましょ。無料でダウンロードできます。
- 3、ぜひ、各地で、知るための学習会を開催ましょ。この機会に、TPPについて知り、運動を広げましょ。

岡本一朗

大学生協東京事業連合  
日本協同組合学会常任理事

# 情報クリップ



メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価/ページ数
<p>▶イベントを通じた仲間づくりで生協の魅力を発信</p> <hr/> <p><b>NAVI</b> 2016. 5 770</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p><b>特集 イベントを通じた仲間づくりで生協の魅力を発信</b>                      &lt;コープのある風景&gt; 生協コープかごしま                      &lt;こんにちは！生協女子ですっ！&gt; コープさっぽろ 畠山円さん                      &lt;元気な店舗の取り組みを学ぶ&gt; コープいしかわ コープおおぬか                      &lt;生協大好きママ コプ山さんの 教えて！CO・OP商品&gt;                      CO・OPフルーツグラノーラ脂質1/2フルーツ2倍アサイー・いちご入り                      &lt;つながろうCO・OPアクション情報&gt; コープみえ                      &lt;想いをかたちにコープ商品&gt; CO・OPびよっちサブレ                      &lt;新連載 今月の コープで笑顔がキラリ&gt; コープぎふ                      &lt;エッセイ&gt; 東京⇄パース 小島慶子の8000キロ通信 空からひとりごと                      &lt;日本全国ふだんのくらしを支えたい&gt; わかやま市民生協                      &lt;明日のくらし ささえ合う CO・OP共済&gt; とちぎコープ                      &lt;この人に聴きたい&gt;                      俳優 大和田 健介さん                      &lt;ほっとnavi&gt; コープこうべ コープみらい</p>	<p>2016年 5月 A4版 35頁 定価 350～円</p>
<p>▶▶地方自治と協同組合の関連性を考える</p> <hr/> <p><b>にじ</b> 2016 春号 第653号</p> <p>社団法人JIC総研</p>	<p>[オピニオン] 板橋衛氏（愛媛大学 准教授）  <b>[特集] 協同の視点から真の「地方創生」を問う</b>                      特集執筆者 北川太一（福井県立大学 教授）                      &lt;論考編&gt;                      「地方創生」とは何か、一問われる地域のかたちー 岡田知弘（京都大学 教授）                      協同組合は「地域づくり」「地域再生」に寄り添うことができるのか、 小林元（広島大学 助教）                      協同組合は真の「地方創生」に寄与できるか、ー「自己改革」を進めるJAの役割とはー 石田田昭（龍谷大学 教授）                      &lt;実践編&gt;                      農協は地域の活性化にどう取り組むか、ーJALまねの挑戦ー 高木賢一（JALまね 代表理事専務）                      多様な協同の力で農漁業・農山村地域を支える                      ーコープいしかわ「のとも～るスマイルプロジェクト」ー 長谷川隆司（コープいしかわ 理事長）                      農村・漁村・漁協の視点から問う「地方創生」                      ー漁村の過疎高齢化に対する行政・系統組織・NPOの取り組みー 馬場治（東京海洋大学 教授）                      自治体と森林組合の連携による森林資源を基盤とした「地方創生」 早尻正宏（山形大学 准教授）                      都市ー農山村交流からはじめる田園回帰ー協同に向かう                      「地域づくりインターン」の実践ー 筒井一伸（鳥取大学 准教授）                      くらしを紡ぎ直す「地域売店」と農協の役割 ー新潟県十日町「ふれあい浦田」ー 山浦陽一（大分大学 准教授）                      「小規模多機能自治」の形成過程とその意義・課題 田中夏子（都留文科大学 非常勤講師）                      田舎こそ教育最適地ー山村留学で地域活性化ー 千野根恵吾（企業組合子どもの森 元代表理事）</p>	<p>2016年 春号 B5版 183頁 定価1600円</p>

	<p>山形県・置賜自給圏推進機構の出発とその意義          ー内発的な連帯による「地方創生」路線の登場ー          丸山茂樹（当研究所 客員研究員）</p> <p>川上村の「地方創生」の経験を語る ー協同組合への期待を込めてー          藤原忠彦（全国町村会 会長）</p> <p>[連載Ⅰ] 原発災害下での暮らしと仕事 ー生活・生業の取り戻しの課題（最終回）          連載「原発災害下での暮らしと仕事 ー生活・生業の取り戻しの課題」をふりかえって          田中夏子（都留文科大学 非常勤講師）</p> <p>座談会          田中夏子（都留文科大学 非常勤講師）・小山良太（福島大学 教授）          熊谷純一（前福島生協連 会長）・大内信一（二本松有機農業研究会 代表）          編集責任：当研究所主任研究員河原林孝由基 副主任研究員千葉あや</p> <p>[連載Ⅱ] 地域発再生可能エネルギーの取り組み（第4回）          再生可能エネルギー発電と農業の兼営の可能性・課題          ー営農型太陽光発電（ソーラーシェアリング）を中心にー          坂内久（(一財)農村金融研究会 主席研究員）          河原林孝由基（当研究所 主任研究員）</p>	
<p>知的農業のススメ</p> <hr/> <p>月刊 J A</p> <p>2016. 5 735</p> <p>全国農業協同組合中央会</p>	<p><b>特集 知的農業のススメ</b>  <b>知的農業による農業の活性化</b>          吉田芳春（吉田国際特許事務所長 弁理士）</p> <p><b>地域ブランドと地域活性化ー地域ブランド戦略の実践</b>          石山徹（東京農業大学 客員教授 文化産業科学者）</p> <p><b>JAにおける地理的表示保護制度の取り組み事例 JA全中農業対策部</b>          オピニオンリーダーに聞く 殿村美樹</p> <p>・きずな春秋 ー協同のこころー 山に植える協同心（中編） 童門冬二</p> <p>・協同組合の広場          日本生協連 JF全漁連 全森連 全国中央会</p> <p><b>JAトップインタビュー</b>          「園芸品目プラスワン」戦略着々 細田勝二（富山県JA みな穂 代表理事組合長）</p> <p>・展望 JA の進むべき道          農畜産物輸出の振興と農業所得の拡大 金井健（JA 全中常務理事）</p> <p>・海外だより 連載 60          [D.C 通信]          アメリカの国立公園保護制度と次世代に対する教育          中村岳史</p>	<p>2016年 5月 A4版 50頁 年間購読料 4,800円 (送料込)</p>
<p>食生活からの健康づくり</p> <hr/> <p>生活協同組合研究</p> <p>2016. 5 484</p> <p>(財) 生協総合研究所</p>	<p>■巻頭言 地域社会づくりへの参加の4つの視点 和田寿昭</p> <p>▶<b>特集 食生活からの健康づくり</b>  <b>ー生協ならではの提案とはー</b>          栄養健康リテラシーの時代          ー21世紀の「正しい食べ方・賢い消費者」のためにー 佐々木敏          食べることに関わる課題を地域で解決するために 稲山貴代          健康ビッグデータで健康長寿社会の実現をめざす          ー疾患予兆発見と予防法解決に向けた弘前大学COI拠点のチャレンジャー          村下公一          日本高血圧学会減塩委員会の取り組み 安東克之          コラム1-1 「からだ健やかシリーズ」の好評で、健康提案へのニーズを実践          ーコープネット事業連合の実践から 松田千恵          コラム1-2 すべては人々の健康のために 染谷忠彦          コラム2 健康な食習慣の体得を促す大学生協の取り組み 松田千恵          コラム3 医療福祉生協がとりくむ減塩運動「すこしお生活」 江本淳          コラム4 海外の小売業と生協の健康への取り組み 佐藤孝一</p> <p>■海外情報          CO・OPフェアトレード生産農園限定セイロン紅茶工場・農園訪問報告 西本有希          ■本誌特集を読んで（2016・3） 武田真一・當具伸一</p>	<p>2016年 5月 80頁 B5版</p>

<p>▶淘汰の時代を生き抜く 介護事業所の実践</p> <hr/> <p><b>文化連情報</b> 2016. 5 458 日本文化厚生農業協同組合 連合会</p>	<p>農協組合長インタビュー（27）干拓地で出来る塩トマト 全国で広く、地域で深く協同し切り拓こう 平成28年度日本文化厚生連事業計画のポイント 院長リレーインタビュー（288） 急性期の土台をしっかりと築いていく 二木学長の医療時評（137） 改めて、2025年に「必要病床数」は大幅減少するか？ <b>淘汰の時代を生き抜く介護事業所の実践</b> 新連載 臨床倫理メディエーション（1） 生命倫理メディエーションとの出会い 農村医学は世直し運動！ 私の歩んできた道(14) 原点は「いのち」を守る運動 医食農同源 医療の現場を食から支える（4） 病院の食育・・・生活習慣病を防ぐヘルシーランチの会 生産を大事にしてこそその六次産業 三重中央農協ベジマルファクトリー 地域医療支援病院に承認されました 山口県厚生連周東総合病院 病院建築と環境（10） 建築環境 一人体— 福島原発事故被災と健康の将来（最終回） 最終章：原発といのち（2） 第2回LCC事例発表 ③ JA岐阜厚生連における大型機器の運用について 秋田県厚生連における財務改善計画と医療機器保守契約の見直し デンマークの地域コミュニティ 住民が作るシニア・コ・ハウジング デンマーク&amp;世界の地域居住（84） オランダの革新⑤ 小規模な組織からの24時間ケア提供 熱帯の自然誌（2）ボルネオ島はどこにあるの ユベントハグデン・アマー地域の認知症の在宅ケア（2） パーソン・センタード・ケア 『三国志』魏志倭人伝が描く倭国の実相（上） 女王「卑弥呼」はここにいた！！</p> <p>田島幹雄 木内健行 三田孝行 二木立 <b>川畑隆三</b> 中西淑美 小山和作 石川知子 武藤喜久雄 馬場良和 富樫英介 安藤 満 松野俊一 高橋毅 齋藤光代 松岡洋子 安間繁樹 小磯明 村上一彦</p>	<p>2016年 5月 B5版 88頁</p> <p>文化連情報 編集部 03-3370 -2529 *注</p>
<p>▶多様な働き方の実現を 通して人材の確保と 定着を目指す</p> <hr/> <p><b>生協運営資料</b> 2016. 5 289 日本生活協同組合連合</p>	<p>●巻頭インタビュー わが生協、かくありたい！ 仲間と一緒に力を合わせて組合員活動で培ったスタンスはこれからも変わらない コープみらい●理事長 新井ちとせ氏 <b>特集 多様な働き方の実現を通して人材の確保と定着を目指す</b> 1 職員・経営・社会の「三方よし」を志向し同一労働と同一賃金の実現を目指す エフコープ●常勤理事 管理本部 本部長 島崎安史氏 人事部 部長 永安陽子氏 2 女性活躍は、一人ひとりの活躍の第一歩コミュニケーションを大切に コープこうべのダイバーシティ コープこうべ●組織管理部 人事・労政担当係長 新谷智子氏 人事制度改革タスクフォース 担当係長 西條慶子氏 3 グループ会社と共にダイバーシティを推進 誰もが働き続けられる職場づくりから見えたこと 大阪いずみ市民生協●常務理事 管理本部 本多敬氏 執行役員 人事総務部長 定免大輔氏 4 生協の男女共同参画促進に関する第4次中期的課題の振り返りと今後の可能性 日本生協連●総合運営本部 政策企画部 久保典子</p>	<p>2016年 5月 B5版 67頁 定価850円</p>

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(♣)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

企画案内

# どうなる？ リニア中央新幹線

## その必要性、採算性、安全性を科学の目で考える

日 時：2016年6月11日（土） 10:00開会 16:30 終了  
 場 所：ハートフルスクエアG 大研修室（JR岐阜駅 徒歩1分）  
 会 費：資料代 500円（学生・院生は無料）下記メールまで事前に申し込みください。

- 報告①問題提起「リニア計画の意義と問題点を事前評価する」橋山禮治郎（アラバマ大学名誉教授）
- 報告②「新ターゲット・ポリシーとインフラ輸出——安倍政権の経済政策の検討」桑原康仁（三重大学人文学部准教授）
- 報告③「残土・住民環境問題」佐藤博明（静岡大学名誉教授）
- 報告④「トンネル掘削による地下水の変化—リニア新幹線による大井川の減水」林 弘文（静岡大学名誉教授）
- 報告⑤「事業認可取消訴訟のゆくえ」岡本浩明（弁護士）

●主催・日本科学者会議2016年度東海地区シンポジウム実行委員会  
 〒514-8507 津市栗真町屋町 三重大学人文学部 前田研究室気付け  
 E-mail:kagaku\_tokai@yahoo.co.jp URL:http://jsa.gr.jp/tokai

書籍案内



### 今なら間に合う 脱・貧困老後

著者:サンデー毎日取材班 発売日:2016年3月11日  
 定価:本体 900 円(税別) 判型:新書サイズ 頁数:192 頁

“一億総中流”といわれた時代を生き、右肩上がりの収入を得て子どもを育てあげ、年金でのんびり暮らす老後を信じていた人たちがほとんどだ。「何ごと」もなければ少ない年金の範囲内で日々の生活をなんとか維持していけるが、急な医療費の支払いや事故など突発的な事案が起きると一気に生活が破綻してしまう。そして「まさか私が…」という言葉を一様に口にする。

「高齢期に入って経済的に困窮するのは『自己責任』である」という厳しい意見も少なからず寄せられた。現役時代にそれなりの蓄えをするべきだと。だが、人生にリスクはつきものだ。失業、離婚、病気、そして最近では子の失業。これらは誰の身にも起こり得ることであり、そこから転落する人が増えているのだ。それは決して自己責任ではなく、景気低迷や時代に合わなくなってきた年金制度や社会保障費削減などが生み出している構造的な問題だ。

毎日新聞出版ホームページより

2016年5月25日発行(毎月25日発行)

定価200円

(税・送料込み。年会費には購読料が含まれています)

発行 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター

代表理事 西川 幸城

〒464-0824 名古屋市中千種区稲舟通1-39

TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315

E-mail AEL03416@nifty.com

HP http://www.tiiki-kyodo.net/

### 研究センター 6月の活動予定

- 2日(木) 研究フォーラム食と農世話人会/寄付講義第7回
- 9日(木) 寄付講義第8回
- 16日(木) 寄付講義第9回
- 18日(土) 政策提言チーム会合
- 20日(月) 尾張地域懇談会世話人会
- 21日(火) 国際協同組合デー記念行事相談会
- 23日(木) 寄付講義第10回
- 24日(金) 協同の未来塾第7回
- 27日(月) 研究センターNEWS発送
- 28日(火) 研究フォーラム地域福祉を支える市民協同世話人会
- 29日(水) 三河地域懇談会世話人会
- 30日(木) 寄付講義第11回/岐阜地域懇談会世話人会